三年学年だより

No.　9　12 月号
令和６年 11 月 発行
３０７ＨＲ

自分の『これだ』を見つけたい

クラスではときどき話していますが、私は村上春樹の本をよく読んでいる、いわゆる村上主義者です。村上春樹について、小説ももちろん素晴らしいのですが、エッセイも興味深いものが多くあり、読者が村上春樹に質問を送り、それに対しての村上春樹の回答をまとめた『村上さんのところ』という本があります。その中の質問で、「僕は必死になれるものがありません。今はとりあえず大学に入ろうと勉強していますが、なんで勉強しているんだろう？　とよく思います。夢がないのに果たして勉強する意味はあるのだろうかと。村上さん、どうしたら自分のこれだというものを見つけることができますか？　それとも僕が甘えているだけでしょうか？」（一部省略）というものがあり、それに対して村上春樹は「甘えているとは思いませんよ。自分が本当にやりたいことがまだ見つからない――それは普通のことです。19 歳でそういうものが見つけられている人の方がむしろ少数派です。これからがんばって見つけてください。ただ、僕は思うんですが、本当にやりたいことというのは、あなたがそれを見つけるよりは、向こうがあなたを見つけることの方が、可能性としては高いのではないかな。僕の場合もそうでした。僕が『小説家になりたい』と思ったのではなく、向こうが『村上くん、小説を書いてみたら』と持ちかけてきたのです。そういうことは多かれ少なかれ、遅かれ早かれ、あなたの身にも起こるかもしれません。それを見逃さないようにすることも大事です。下手をすると見落としてしまうから。いつも目をしっかりと開け、耳を澄ましていること、それが大事です。」という回答をしています。やりたいことについて、向こうがあなたを見つけてくれる、というのは少し不思議な表現に聞こえるかもしれません。でも、案外そういうものではないかと思います。ここで大事なことは、見つけてもらうにはぼんやりとしていてはいけない、ということです。日々目の前にある、やるべきことをしっかりとやっていくこと、そうすれば、『やりたいこと』が見つけてくれるのだと思います。これもクラスでは話したと思いますが、私は 30 歳を過ぎてから教師になろうと思い、それから大学に入りなおして、35 歳くらいの時に教員免許を取って教師になりました。私の場合は『やりたいこと』に見つけてもらうのに少し時間がかかりましたが、みなさんもいつか『やりたいこと』に見つけてもらえるよう、まずは受験に向けて、これからの高校生活、日々努力して過ごしてください。

引用文献　村上春樹『村上さんのところ』新潮社　2018 年

（３０７ＨＲ担任）

「１８歳」

先日、７時間目の授業が終わった後、ある生徒が「あぁ、今日も一日頑張ったぁ」と友達と会話しながら階段を降りてきた。それを聞いて、私は「あぁ、いいな」と思った。私は、最近は「やれやれ、今日は終わりにしよう。あぁ疲れた」と思いながら帰っている。このある生徒と私では、一日の充実感が違うんだろうと思う。「今日も一日頑張った」と言えるのは、今日やるべきことをしっかりやりきったとき、あるいは、自分の夢や目標に向かってわずかながらでも進むことができたと実感があったとき、なのかなと思う。古いものだが「１８歳と８１歳の違い」という笑点のネタを集めた川柳？がある。高齢社会の中で決して笑えないブラックすぎるユーモアを感じるが、１８歳というのは未知に向かうエネルギーがあることを感じる。「自分探しをしているのが１８歳…」「恋におちるのが１８歳…」「ドキドキが止まらないのが１８歳…」きっとこれが１８歳なのだろう。あふれるエネルギーで、高校生活を送り、部活動や運動会など乗り切ってきた皆さん、残りわずかな高校生活は自分の将来に向かうのみです。もう次のスタートラインに立てることが決まっている人は、今頑張っている人の支えになるようにしてほしいと思います。卒業まで、３年生全員で頑張ったと言えるようにしていきましょう。

（３０７ＨＲ副担任）